

2014年(平成26年)2月23日(日曜日)



南海トラフ巨大地震に備え医療態勢の必要性を呼びかける菅原教授＝浜松市中区で

浜松医師会  
フォーラム

## 南海トラフ備え必要

### 患者受け入れ態勢など

浜松市医師会の第二回臨床研修フォーラムが二十二日、中区のグランドホテル浜松であり、東北大学東北メディカル・メガバンク機構の菅原準一教授が「浜松が大震災に襲われたら」をテーマに講演した。南海トラフ巨大地震に備え、県外へ

の救急搬送を含めた患者の受け入れ態勢の準備を呼びかけた。

東日本大震災時に東北大周産期母子医療センターに勤務していた菅原教授は、被災状況はニュースで報じられないと把握できなかったと指摘。若い医師らを沿岸部に派遣して情報を収集に努めたと当時の混乱ぶりを紹介した。

妊婦のへその緒を救急隊員が切断した事例も紹介し、「浜松でも救急医や救急隊員に出産の研修が必要」と語った。南海トラフ巨大地震に備え、日ごろから自家発電機の動作確認やガソリン、食料の確保が必要とした上で、「救急指定の車両や患者を受け入れる病院を決めておくべきだ」と話した。